



第45回九州シニア選手権競技

競技報告 (2015/10. 7- 8)

写真と記事 : M. Kikutake

通算7オーバー、151

板井良春(三重)が初優勝

プレーオフで山内孝徳(セブンミリオン)を下す



第45回九州シニア選手権競技は10月7～8日の2日間、大分県由布市の大分サニーヒルゴルフ倶楽部(6693㍎、パー72)で行われ、通算7オーバー、151で並んだ2人によるプレーオフで60歳の板井良春(三重)が59歳の山内孝徳(セブンミリオン)を下し、初優勝した。

プレーオフは1ホール目の18番(パー5)、3打目でグリーンをとらえきれなかった山内が、アプローチでも寄せきれず3mのパーパットを外したのに対し、板井は5mに3オンしたあと2パットで沈めてパーとし、うれしい栄冠獲得となった。

55歳以上が出場資格のシニア選手権は、各県地区予選を勝ち抜いた149人(欠場4人)が参加。2日間とも好天に恵まれたが、選手たちは硬く締まった高速グリーンにてこずった。

初日、2オーバーの74で板井、山内のほか佐々木茂(別府、58歳)、鶴木伸久(ブリヂストン、59歳)の4人が首位に並んだ。これを1打差、75の5位タイに木下高明(矢部サンバレー、56歳)ら10人、さらに1打差の15位タイに8人と首位から2打差に計21人がひし

めく混戦となった。

この日の結果、最終日の決勝Rへは9オーバー、81の70位タイまでの83人が進出。前回優勝の大野徹二(大博多、58歳)は不調で、87をたたいて予選落ちした。

その最終日も難グリーンにスコアを崩す選手が続出。そんな中、5オーバーの77と手堅くまとめた板井と山内が通算7オーバーで並び、昨年に続く2年連続のプレーオフにもつれ込んでいた。

1打差、通算8オーバー、152の3位タイには鶴木、佐々木と榎隆則(大分中央、56歳)、青木英樹(佐賀ロイヤル、64歳)の4人が入り、前週の九州グランドシニアを制した大川重信(志摩シーサイド、70歳)は9オーバーで7位タイだった。

また、9オーバーの7位タイに入った阿久根公生(有明)が最終日の4番ホール(171㍎、パー3)でホールインワンを達成し、開催コースから記念品が贈られた。阿久根は福岡・柳川高ゴルフ部監督で、九州高校ゴルフ連盟理事長。

日本シニア選手権は21人が出場権を獲得

この試合の結果、11位タイまでの19人と、20位タイの6人のうち最終日成績上位の2人の計21人(シード含む)が第37回日本シニア選手権(11月11～13日・広島CC八本松)への出場権を得た。



「優勝は悲願でしたからね」と板井良春 “我慢合戦”を制してのビッグタイトル獲得

まさに団子状態。2打差に21人がひしめき、優勝争いの行方はまったく混とんとしていた。

そんな中で頭一つ、1打差をつけて抜け出したのが板井良春と山内孝徳だったが、もつれ込んだプレーオフはあっさり1ホール目で決着がついた。

「自分のゴルフが甘かった。地元（大分）の人が順当に勝ったということでしょう」。山内の表情は淡々としていた。

決勝ラウンド。74の首位タイでスタートした山内は前半の5番でシャンクが出てトリプルをたたくなど、2バーディー、4ボギー、1トリプルボギーと出入りの激しいゴルフ。



一方の板井はバーディーはゼロだったが、ボギー5つにおさめての77。「(首位に立った)初日はラッキーもあった」とはいうものの、最終日は「グリーン勝負になる」としっかりと戦略を立てていた。「ラフがきついし、グリーンも速い」。そこで、第1打では苦手のドライバーは極力握らず、スプーン、3番アイアンで攻めた。それが功を奏した。グリーンを外しても、しっかりと寄せワン狙い。選手たちが速いグリーンに悪戦苦闘する中で、「ショートパットがうまくいった」と勝因をあげるほどだった。つまり、「我慢が私の信条。苦しかったけど、好きなパターで拾って拾って、拾いまくった」と言う板井。プレーオフは3度目の経験での勝利。「3度目の正直でした」と表情をほころばせた。



大分商高時代は甲子園を目指した球児。社会人になっても軟式野球を楽しんでいたが、シーズンオフに会社の先輩に誘われてクラブを握ったのがゴルフの始まりという。40代になってから競技にも出るようになったが、地元新聞社やテレビ局の大会で勝ったことはあるが、九州規模の大会では優勝経験はなかった。

悲願がかなった次は、3度目の出場の日本シニア選手権。初出場の2010年は35位タイ、昨年は30位タイ。ここでも「3度目…」に期待したいものだ。

(写真①は健闘をたたえあう山内②と板井③。写真④は板井のショット)